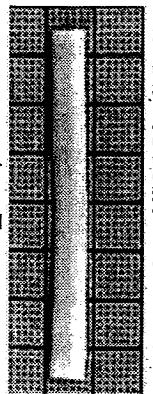


形状記憶樹脂のイメージ



(2) 再び熱すると元の形にもどる



阪大が新製法 形状記憶樹脂 低成本で製造

大阪大の宇山浩蔵は、形状記憶樹脂が元の形に戻る現象を利用して、形状記憶樹脂を低成本で製造する方法を開発した。形状記憶樹脂は、形状記憶樹脂を加热して塑性変形させ、冷却して形状を固定する。しかし、形状記憶樹脂の手の形の形を固定するためには、高価で化粧合板を使用する必要がある。一方で、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。そこで、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。

ねじ・ギ・pusに応用

大阪大の宇山浩蔵は、形状記憶樹脂が元の形に戻る現象を利用して、形状記憶樹脂を低成本で製造する方法を開発した。形状記憶樹脂は、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。そこで、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。

今後は企業への技術移転があり、1~2年後の実用化を目指す。形状記憶樹脂のコスト削減により、自動車の車体や、航空機の構造部品など、幅広い分野での利用が期待される。

現在の形状記憶樹脂は、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。そこで、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。

形状記憶樹脂は、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。そこで、形状記憶樹脂を手で握り、手筋がつかみやすく、樹脂も手に付かない。